

平成28年度第2回一宮町総合教育会議概要

1. 日 時 平成29年1月17日（火）11時20分～12時10分
2. 場 所 議員控室
3. 出席者 馬淵町長、中村委員長、渡邊教育委員長職務代理者（委員）、山田委員、伊木委員、町田教育長（委員）

4. 配布資料

- ・一宮町総合教育会議 会議次第
- ・一宮町総合教育会議 名簿
- ・一宮町教育大綱
- ・一宮町総合教育会議設置要綱
- ・アクティブラーニング研修会会議資料

5. 会議内容

1) 町長あいさつ

○以下の通りあいさつがあった。

2020年の学習指導要領改訂にあたり年末に文部科学省から方針が示された。カリキュラムマネジメントとアクティブラーニングの導入がキーワードとなった。一宮町は前倒しをして進めていきたいと思っているが、本日はそのことについて話し合いをしたい。

2) 報告事項

アクティブラーニング研修会について

○以下の通り委員から意見があった。

馬淵町長；学習院大学時代に環境教育を専門とする諏訪教授からアクティブラーニングの重要性について話があり、今後の教育はアクティブラーニングを軸とした教育が進められるとのことであった。諏訪教授はアクティブラーニングの研究を数年前から続けられ、アジア諸国、特に中国の事例から、学力上昇が展望できることからアクティブラーニングの推進と相関関係にあることがわかっている。また、諏訪教授から一宮町で取り組む場合はぜひ協力したいとの話もあったためアクティブラーニングの移行へ重きを置いていきたいと考えている。

2020年が一般的だが、一宮町はこれから取り組み先行して進めていきたい。

町田教育長；中央教育審議会の答申では意味は同じだが、アクティブラーニングという文言は使われず、「主体的で、対話的で深い学び」という表現をしている。小学校の授業ではアクティブラーニングという言葉は出て

こないが、グループ討議を重ねていくということは既に行われている。今後一宮町で諏訪教授をリーダーにどのように進めていくかはまだ分からないが明日の説明会で疑問点について伺い、前進していきたい。

馬淵町長；2020年は小学校で新しい指導要領が施行され、中学校は翌年になる。それまでは一宮町には3年あり、2017年度には諏訪教授に顧問のような役割を担っていただき十分に話を合意した後18年度、19年度と実際に進めてもらいたい。半年から1年にかけて準備期間をとるべきである。

渡邊委員；アクティブラーニングについては大賛成である。ただ、危惧している点があり、従前、「ゆとり教育」を導入したが、「ゆとり教育」は失敗だったという意見があるが、失敗ではなく続けるべきだと考えている。町の雰囲気の中で「学力が低下してきている」、「学校の秩序が乱れてきている」ということを聞くが、これは子どもの主体性の表れである。この部分を理解してもらわないといけない。昔は先生の言うことを良く聞き、良く覚えてテストで力を発揮する生徒が理想像であったが、それだけではいけないようになってきており、自分で考えて行動することが求められるようになってきているので、この考え方を理解しないと再び混乱してしまうと思う。どう成果に結びついているのか明日伺いたいと思う。

馬淵町長；自主性を重んじるときは定義を間違えるとそういった結果が起こりうる。こうしたことを踏まえてどう回避するか考えていく必要がある。前回諏訪教授の研究会に参加した際に国内でもいくつか事例があると伺った。この事例も紹介されると思うが、自主性を重んじながら全体的な統制をしているのか個々の事例をもとに一宮町に合う形にするために考えていきたい。

町田教育長；そういった危惧に対して教員がうまくコントロールすることが求められる。教員の教え方が今までとは違うため、この部分を教員がうまくマスターできるかが重要である。これがマスターできないと混乱につながっていく。明日の会議でもファシリテーターとしての役割として話に出ているが、ここが大きな要点になると思う。諏訪教授との関わりの中で考え方を納得していくことが非常に重要である。

馬淵町長；1回では終わらせずに何度も協議をしてその積み重ねの上でアイデアやメソッドを共有をしてもらい一宮の現実に合せた場合どう定義

できるか考えていかなければならない。

町田教育長；そこは非常に重要で、諏訪先生の手法に対して、教員には自身の考えがあるためこの考え方と衝突してしまうとうまくいかない。

馬淵町長；共同作業であるため、1回だけで違和感があつてやめてしまうあるいは強権でやれといつてもうまくいかない。お互いに忍耐力をもって進めていくとうまくいく事例が多いと思う。

中村委員長；学習院流の押し付けは間違いである。それぞれが納得するために話し合ってもらいたい。

馬淵町長；ゆとり教育は失敗であつたという話があつたが理想的にはアクティブラーニングにつながる所はある。

町田教育長；十分な理解が進まず、直感的な理解が進んでしまった結果であると思う。

渡邊委員；評価システムが古いままというのも原因であると思う。どのような子ども像を描くのか決めないと評価する基準が違ふため機能しないと思う。

馬淵町長；中国などが新たなメソッドに完全に移行し学力の上昇を勝ち取つたことや国際競争力を考えたうえでも日本の教育改革はさけて通れない。ゆとり教育をいい前例として再び失敗が起きないようにしていくべきである。時間をかけて進め、いい部分を取り込んでもらいたい。

以上